



Uwasamon うわさもん。

～益城の若もんも、がまだしょっぱい！～

町でうわさの若者を紹介。

夢に向かって全力で進む若者を応援します。

頑張っているもの

バレーボール

いわさき
名前 **岩崎 みなみ** さん(18)

行政区 惣領 3 町内

東九州龍谷(旧扇城)高等学校 3 年生

部活動：バレーボール部(セッター、No.2)

平成 27 年度全九州高校バレーボール大会優勝／平成 27 年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)出場／第 70 回国民体育大会(少年女子バレーボール競技)出場／平成 27 年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権ファイナルラウンド出場／第 68 回全日本バレーボール高等学校選手権大会(春高バレー / 1 月 5 日開会)出場予定 ほか



「みんなの気持ちがつながり、ボールがつながって勝った時がすごくうれしい」と、バレーボールの魅力話すのは岩崎みなみさん。

母淳子さんの影響を受け、バレーを始めたのは小学 2 年の時。4 年生から益城中央バレーボールクラブに所属したみなみさんは、「技術面、心の面で細かいところまで成長させてもらいました。そこが今の原点です」と話す。

「もっとレベルアップしたい」。みなみさんは中学進学で悩みに悩んだ。結果、県内トップレベルの学校へ進み、2 年生から試合に出場。全国の頂点を目指した。当時は、先輩の古賀紗理那選手にトスを上げることもあったという。

「もっと上へ」。みなみさんは迷わず、小さい頃から憧れていた東龍バレー部の門を叩いた。「うれしくて、がむしゃらに頑張ろうと思いました」と入部時を振り返る。だが、そこは全国の名門校。競争は激しく、なかなか試合に出してもらえない苦しい日々が続いた。それでも、「何でも素直に聞き入れ、まじめに努力することを意識していました」というみなみさん。その誠実な思いが天に通じたのか、今年の 6 月にレギュラーをつかみ取ると、今ではキャプテンとしてチームを引っ張る頼もしい存在となった。寮長として生活面でも選手を支えるみなみさん。大変な毎日を送っているが、それでも「バレーに専念できて充実した生活です」と明るく話し、「寮の食堂で、みんなでご飯を食べるのが一番の楽しみです」と無邪気な笑顔を見せた。いよいよ高校の集大成、「春高バレー」。「今までお世話になった人たちへの感謝と恩返しの意味を込め、すべてをぶつけます」。その言葉とともに、みなみさんの拳に思わず力が入った。